

FortiMail

FortiMail 200E、400E、1000D、2000E、3000E、3200E、VM

FortiMail アプライアンスと仮想アプライアンスは、スモールビジネスから大規模エンタープライズ、キャリア、サービスプロバイダに至る、あらゆる規模のユーザーに対応した、実績あるメッセージングセキュリティプラットフォームです。非常に厳しい要求にも耐えうるメッセージングシステムとして専用開発された FortiMail アプライアンスは、スパム、マルウェア、その他メッセージに伴う脅威からネットワークを保護してきたフォーティネットの長年にわたる経験が活かされています。



インテリジェントプロテクション

フォーティネット セキュリティ ファブリックの構成要素として FortiMailを導入することで、組織のメッセージングシステムが脅威にさらされる事態を回避できます。FortiMailのインバウンドフィルタリングエンジンがスパムとマルウェアをブロックするため、それらがネットワークに侵入してユーザーに影響を及ぼすことはありません。また、アウトバウンドスパムやマルウェアが原因で他のアンチスパムゲートウェイが正規のユーザー（モバイルトラフィックを含む）をブラックリストに登録してしまう問題も、FortiMailのアウトバウンドインスペクションテクノロジーによって防止することができます。

高性能かつ比類ない柔軟性

FortiMailシステムは、精度の高いさまざまなアンチスパムフィルタを用いることで、高性能なメールルーティングと強固なセキュリティを実現します。業界をリードするFortiGuard Labsのリアルタイムアンチウイルスおよびアンチスパイウェアプロテクションの組み合わせにより、FortiMailはユーザーに極めて高速かつ正確なメッセージングセキュリティを提供します。クラウドおよびオンプレミスの環境においてアプライアンスまたは仮想マシンのさまざまなフォームファクタで導入し、ゲートウェイ、インライン、サーバーの各モードで利用することができます。このように、FortiMailはそれぞれの組織の環境やユーザーにもっとも適した形でメッセージングセキュリティを展開できる柔軟性も兼ね備えています。

高度な標的型攻撃対策

FortiGuardサービスのアンチウイルス対策の他にも、FortiMailはコードエミュレーションに対応しており、不審なファイルの意図的な振る舞いを特定しブロックします。クラウドベースまたはオンプレミスの「サンドボックス化」オプションでは、昨今増えつつある従来の防御対策を回避しようとする巧妙な標的型攻撃やカスタマイズされた攻撃を阻止し、完全にセキュリティ保護されたランタイム環境を提供します。詳細な脅威情報と実用的な洞察は、FortiGuard Labを通じて情報共有し、保護対策アップデートとして自動的に配信されるため、企業/組織はこのような巧妙な攻撃による情報漏洩やセキュリティ侵害のリスクを軽減することができます。



導入モード

メールゲートウェイ
トランスペアレント
フル機能搭載メールサーバー



FortiCare Worldwide Support

support.fortinet.com



FortiGuard Security Services

www.fortiguards.com

第三者機関の認定



データ保護とコンプライアンスを容易に実現

FortiMail の ID ベース暗号 (IBE)、S/MIME、および TLS メール暗号化オプションにより、セキュアなコンテンツ配信を実現します。

事前定義済の HIPAA、GLBA、SOX、またはカスタムのディクショナリを使用して、偶発的または意図的な機密データの損失を防止します。

主な機能と特長



柔軟な導入オプション

FortiMailは、ゲートウェイまたはトランスペアレントモードでの設置の他、独自のフル機能搭載メールサーバーとして運用することも可能です。クラウドにも設置できることに加え、ハードウェアと仮想アプライアンスの両方のフォームファクタで、FortiMailはお客様のあらゆるニーズに柔軟に対応することができます。

情報漏洩対策および IBE暗号方式をサポート

定義したデータパターンを使用して機密または規制対象の情報を検出し、認証を伴うセキュアな配信には、新たなハードウェアやソフトウェアのインストール、ユーザープロビジョニングは必要ありません。

フィッシングやその他の巧妙な脅威を阻止

埋め込みURLの検査、トップクラスのマルウェア対策、そしてサンドボックスとの統合オプションにより、巧妙な標的型攻撃を検知します。

スパム送信エンドポイントの識別とブロック

キャリアやサービスプロバイダは、スパムメールを送信しているエンドポイントをブロックし、利用者がブラックリストに登録されることを防止できます。

ユーザー数無制限 ライセンスの 統合セキュリティ

ユーザー数に制限なく、アンチウイルス、アンチスパム、アンチスパイウェア、アンチフィッシングを含む完全な多層セキュリティプロテクションを実現します。これにより、TCOの大幅な削減が可能になります。

主な機能

システム

- 多様な導入オプション：
 - トランスペアレント、ゲートウェイ、サーバーモード
 - オンプレミス、パブリック/プライベートクラウドへの導入に対応
- インバウンド、アウトバウンドスキャン
- ドメインレベルのカスタマイズが可能な、マルチ E メールドメイン
- IPv6、IPv4 アドレスサポート
- 送信元や宛先に関する IP アドレスのプールを用いた仮想ホスティング
- LDAP、RADIUS、POP3、または IMAP による SMTP 認証
- LDAP ベースの E メールルーティング
- ポリシー (ドメイン) 単位の LDAP 属性を用いた、ユーザー単位のスキャン
- サーバーモードの展開と隔離メール管理のための、分かりやすい Web メール画面
- メールキュー管理
- Web メールと管理画面の多言語対応
- E メール RFC コンプライアンス

管理、ログ、レポート

- ベーシック/アドバンスド管理モード
- ドメイン単位のロールベースの管理者アカウント
- アクティビティ、構成の変更やインシデントの広範なログとレポート
- ビルトインレポートモジュール
- 大規模な導入にも対応する集中隔離機能
- FortiAnalyzer を利用したログとレポートの集約
- 閾値による標準とプライベート MIB を利用した SNMP サポート
- iSCSI デバイスを含む、外部またはローカルストレージサーバーのサポート
- 外部 Syslog サーバーのサポート

アンチスパム

- FortiGuard アンチスパムサービス
 - グローバルセンサーレピュテーション
 - スパムオブジェクトチェックサム
 - ダイナミックヒューリスティックルール
- リアルタイムのスパムアウトブレイク防御
- スパムとフィッシング URI、そして E メールアドレス
- 全カテゴリの FortiGuard URL フィルタリング
- IPv4、IPv6 アドレスと E メールアカウントのグレーリスト
- ローカルセンサーレピュテーション (IPv4、IPv6、エンドポイント ID ベース)
- ふるまい分析
- ディープEメールヘッダーインスペクション
- サードパーティのスパム URI とリアルタイムブラックリスト (SURBL/RBL)
- ニュースレター検知
- PDF スキャン、イメージ分析
- グローバル、ドメインおよびユーザーレベルのブラック/ホワイトリスト
- エンタープライズ向けの送信ドメイン認証技術のサポート：
 - Sender Policy Framework (SPF)
 - Domain Keys Identified Mail (DKIM)
 - Domain-Based Message Authentication (DMARC)
- 柔軟なアクションと通知プロファイル
- システム/ユーザーのセルフサービスの隔離

主な機能

高可用性 (HA)

- あらゆる導入形態で高可用性をサポート
 - アクティブ - パッシブモード
 - アクティブ - アクティブ構成同期モード
- 隔離およびメールキューの同期
- デバイス障害の検出および通知
- リンクステータス、フェイルオーバー、冗長インタフェースサポート

マルウェア対策

- FortiGuard アンチウイルスサービス
- ヒューリスティックベースのふるまい検知
- リアルタイムのマルウェアアウトブレイク検知
- オンプレミス/クラウドのサンドボックス統合

アンチスパム

- 先進のグループウェア機能を備えたサーバーモードの導入
- 外部ストレージの利用も可能な、ポリシーベースのメールアーカイブ
 - Exchange ジャーナルによるアーカイブに対応
- ファイルのフィンガープリントや機密データの検知による包括的なデータ漏えい対策
- ID ベース暗号 (IBE: Identity Based Encryption)

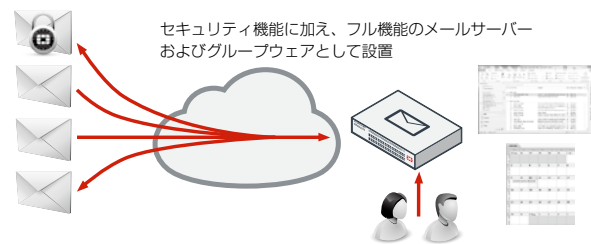
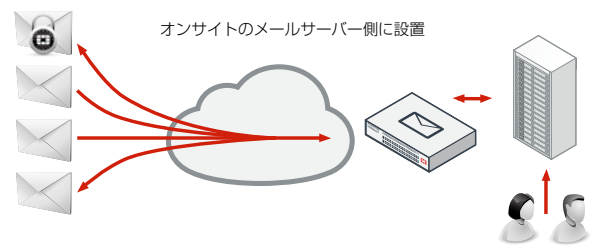
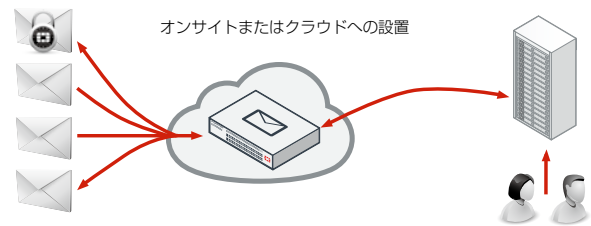
FortiMail 導入オプション

FortiMail は、トランスペアレント、ゲートウェイ、またはサーバーの各モードを選択して設置できるため、組織固有のメッセージングセキュリティ要件を満たし、インフラの変更やサービスの中断を最小限に留めることが可能です。

ゲートウェイモード: 既存の E メールゲートウェイに対してインバウンドおよびアウトバウンドのプロキシメールトランスフェーエージェント (MTA) サービスを提供します。シンプルな DNS MX レコード変更機能によって E メールが FortiMail にリダイレクトされ、そこでアンチスパム / アンチウイルススキャンが実行されます。FortiMail ユニットの、メッセージを受信してウイルスやスパムがないかどうかをスキャンしてから、E メールを宛先の E メールサーバーへと中継します。

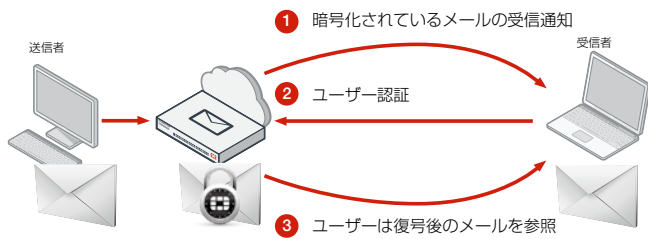
トランスペアレントモード: 各ネットワークインタフェースに、E メールを受信および中継するプロキシが含まれます。各プロキシは、宛先 IP が FortiMail アプライアンスでなくても SMTP セッションをインターセプトできます。FortiMail はウイルスやスパムがないかどうかをスキャンしてから、E メールを宛先の E メールサーバーへと転送します。DNS MX レコードを変更したり、既存のネットワーク構成を変更したりする必要がありません。

サーバーモード: FortiMail ユニットのスタンドアロンメッセージングサーバーとして動作し、セキュアな POP3、IMAP、および Web メールアクセスを柔軟にサポートする、SMTP メールサーバーのフル機能を提供します。メッセージを受信すると、ウイルスやスパムがないかどうかをスキャンしてから、E メールユーザーのメールボックスに送信します。サーバーモードの FortiMail ユニットの保護されたサーバー自身として機能するため、外部の MTA が FortiMail サーバーに接続します。



FortiMail 導入オプション

ID ベース暗号（IBE: Identity Based Encryption）により、追加ライセンス料金なしで、機密または規制対象の E メールを自動的にセキュアに配信します。暗号化した添付ファイルとパスワードを別のメールで送る必要がなくなり、ユーザーの利便性が向上します。



ポリシーベースの暗号:自動的にメッセージを暗号化するポリシーを作成することで、ユーザーが意識することなく、安全にメールを送信できます。

プッシュまたはプルモード:プッシュ、プル、またはその併用の各モードを用いて、各組織のセキュリティ要件を満たすことができます。

導入、使用、管理が容易:ランスペアレントを含めた任意の展開モードで ID ベース暗号を実装できます。ユーザープロビジョニングを実施したりハードウェアまたはソフトウェアを追加したりする必要は一切ありません。

技術仕様

	FortiMail 200E	FortiMail 400E
推奨される導入環境	ユーザー数400名未満の小規模企業、支社、組織*	ユーザー数1,000名までの中小規模企業*
ハードウェア仕様		
GbE RJ-45インタフェース	4	4
GbE SFPインタフェース	0	0
内蔵ストレージ	1 x 1TB	2 x 1TB
RAIDストレージ管理	—	ソフトウェア: 0, 1
形状	1 U	1 U
電源	単一	単一
システム性能		
管理ドメイン数**	20	100
受信者ベースのポリシー数(ドメイン/システム)、送信または受信	60 / 300	400 / 1,500
メールボックス数(サーバーモード)	150	400
アンチスパム、アンチウイルス、認証、コンテンツプロファイル数(ドメイン/システム)	50 / 60	50 / 200
パフォーマンス (メッセージ数/時: 100 KBのメッセージサイズに基づく、キューイングがない場合)		
メールトランザクション数	80 K	157 K
FortiGuardアンチスパム	71 K	147 K
FortiGuardアンチスパム+アンチウイルス	61 K	126 K
サイズ		
高さ x 幅 x 奥行 (mm)	45 x 433 x 352	45 x 433 x 352
重量	6.1 kg	6.1 kg
動作環境		
電源	100 ~ 240 V AC、50 ~ 60 Hz	100 ~ 240 V AC、50 ~ 60 Hz
電流(最大)	100 V / 4 A、240 V / 2 A	100 V / 5 A、240 V / 3 A
必要電源(最大)	71 W	131 W
消費電力(平均)	59 W	103 W
放熱	280 BTU/h	482 BTU/h
湿度	5 ~ 95% (結露しないこと)	5 ~ 95% (結露しないこと)
動作温度	0 ~ 40 °C	0 ~ 40 °C
保管温度	-25 ~ 70 °C	-25 ~ 75 °C
準拠規格	FCC Part 15 Class A、C-Tick、VCCI、CE、UL/cUL、CB、BSMI	FCC Part 15 Class A、C-Tick、VCCI、CE、UL/cUL、CB
認定	VB Spam、VB100、Common Criteria NDPP、FIPS 140-2	VB Spam、VB100、Common Criteria NDPP、FIPS 140-2

* ゲートウェイおよびトランスペアレントな導入向けの推奨ユーザー数。サーバーモードでの導入については、メールボックス数(サーバーモード)の項目をご参照ください。適切なモデルの選択が難しい場合は、最大メールフローレートおよび平均メッセージサイズをご確認の上、FortiMail製品担当者にご相談ください。

** 管理ドメイン数は、アプライアンス上で構成・管理可能なEメールドメインの総数です。ドメインアソシエーションを利用することで、割当て先のプライマリドメインと構成を共有する追加のドメインを有効にすることが可能です。

技術仕様

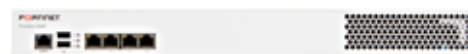
	FortiMail 1000D	FortiMail 2000E	FortiMail 3000E	FortiMail 3200E
推奨される導入環境	ユーザー数3,000名までの中規模から大規模企業、教育機関および政府機関の各部門*	大規模企業、教育機関および政府機関の各部門*	最大レベルの規模の大学、企業、ISP、通信キャリア向けのハイエンドアプライアンス	最大レベルの規模の大学、企業、ISP、通信キャリア向けのハイエンドアプライアンス
ハードウェア仕様				
GbE RJ-45インタフェース	6	4	4	4
GbE SFPインタフェース	2	2	2	2
10 GbE SFP+インタフェース	—	0	—	2
内蔵ストレージ	2 x 2 TB (2 x 2 TB 追加可)	2 x 2 TB (8 x 2 TB 追加可)	2 x 2 TB (6 x 2 TB 追加可)	2 x 2 TB (10 x 2 TB 追加可)
RAIDストレージ管理	ハードウェア：1、5、10、50 ホットスペア (ドライブの台数に基づく)	ハードウェア：1、5、10、50 ホットスペア (ドライブの台数に基づく)	ハードウェア：1、5、10、50 ホットスペア (ドライブの台数に基づく)	ハードウェア：1、5、10、50 ホットスペア (ドライブの台数に基づく)
形状	2 U	2 U	2 U	2 U
電源	冗長	冗長	冗長	冗長
システム性能				
管理ドメイン数**	800	800	2,000	2,000
受信者ベースのポリシー数(ドメイン/システム)、送信または受信	800 / 3,000	800 / 3,000	1,500 / 7,500	1,500 / 7,500
メールボックス数 (サーバーモード)	1,500	1,500	3,000	3,000
アンチスパム、アンチウイルス、認証、コンテンツプロファイル数(ドメイン/システム)	50 / 400	50 / 400	50 / 600	50 / 600
パフォーマンス (メッセージ数/時：100 KB のメッセージサイズに基づく、キューイングがない場合)				
メールトランザクション数	680 K	1.1 M	1.8 M	1.8 M
FortiGuardアンチスパム	620 K	1.0 M	1.6 M	1.6 M
FortiGuardアンチスパム+アンチウイルス	500 K	900 K	1.5 M	1.5 M
サイズ				
高さ x 幅 x 奥行 (mm)	88 x 438 x 368	89 x 437 x 647	89 x 437 x 647	89 x 437 x 647
重量	12.52 kg	14.5 kg	18.2 kg	18.2 kg
動作環境				
電源	100 ~ 240 V AC、50 ~ 60 Hz	100 ~ 240 V AC、50 ~ 60 Hz	100 ~ 240 V AC、50 ~ 60 Hz	100 ~ 240 V AC、50 ~ 60 Hz
電流 (最大)	3.50 A / 110 V、1.75 A / 220 V	10.0 A / 110 V、3.5 A / 240 V	9.8 A / 110 V、4.9 A / 220 V	9.8 A / 110 V、4.9 A / 220 V
必要電源 (最大)	138 W	219 W	379 W	382 W
消費電力 (平均)	115 W	189 W	348 W	351 W
放熱	471 BTU/h	781 BTU/h	1,325 BTU/h	1,335 BTU/h
湿度	5 ~ 95% (結露しないこと)	8 ~ 90% (結露しないこと)	8 ~ 90% (結露しないこと)	8 ~ 90% (結露しないこと)
動作温度	0 ~ 40 °C	5 ~ 35 °C	10 ~ 35 °C	10 ~ 35 °C
保管温度	-25 ~ 70 °C	-40 ~ 60 °C	-40 ~ 70 °C	-40 ~ 70 °C
準拠規格	FCC Part 15 Class A、C-Tick、VCCI、CE、UL/cUL、CB	FCC Part 15 Class A、VCCI、CE、RCM、BSMI、UL/cUL、CB	FCC Part 15 Class A、C-Tick、VCCI、CE、BSMI、KC、UL/cUL、CB、GOST	FCC Part 15 Class A、C-Tick、VCCI、CE、BSMI、KC、UL/cUL、CB、GOST
認定	VB Spam、VB100、Common Criteria NDPP、FIPS 140-2	VB Spam、VB100、Common Criteria NDPP、FIPS 140-2	VB Spam、VB100、Common Criteria NDPP、FIPS 140-2	VB Spam、VB100、Common Criteria NDPP、FIPS 140-2

* ゲートウェイおよびトランスパレントな導入向けの推奨ユーザー数。サーバーモードでの導入については、メールボックス数 (サーバーモード) の項目をご参照ください。適切なモデルの選択が難しい場合は、最大メールフローレートおよび平均メッセージサイズをご確認の上、FortiMail製品担当者にご相談ください。

** 管理ドメイン数は、アプライアンス上で構成・管理可能なEメールドメインの総数です。ドメインアソシエーションを利用することで、割当て先のプライマリドメインと構成を共有する追加のドメインを有効にすることが可能です。



FortiMail 200E



FortiMail 400E



FortiMail 1000D



FortiMail 2000E



FortiMail 3000E and 3200E

技術仕様

FortiMail 仮想アプライアンスの技術仕様	VM00	VM01	VM02	VM04	VM08	VM16	VM32
推奨される導入環境	デモ、検証、トレーニング、およびユーザー数 100名未満の小規模企業での利用 *	ユーザー数 400名未満の小規模企業、支社、組織 *	ユーザー数 1,000名までの中小規模企業 *	ユーザー数 3,000名までの中規模から大規模企業 *	大規模エンタープライズ	大規模エンタープライズ	大規模エンタープライズ
技術仕様	サポートするハイパーバイザー VMware ESX/ESXi 4.0/4.1/5.0/5.1/5.5/6.0、Citrix XenServer 5.6 SP2/6.0以降、Microsoft Hyper-V 2008 R2/2012/2012 R2、KVM (qemu 0.12.1)、AWS (Amazon Web Services)、Microsoft Azure						
仮想CPU数 (最大)	1	1	2	4	8	16	32
仮想NIC数 (最小 / 最大)	1 / 4	1 / 4	1 / 4	1 / 6	1 / 6	1 / 6	1 / 6
仮想ストレージ容量 (最小 / 最大)	50 GB / 1 TB	50 GB / 1 TB	50 GB / 2 TB	50 GB / 4 TB	50 GB / 8 TB	50 GB / 12 TB	50 GB / 24 TB
メモリ (最小 / 最大)	1 GB / 2 GB	1 GB / 4 GB	1 GB / 8 GB	1 GB / 16 GB	1 GB / 16 GB	1 GB / 128 GB	1 GB / 128 GB
パフォーマンス (メッセージ数/時: 100 KBのメッセージサイズに基づく、キューイングがない場合)**							
メールトランザクション数	3.6 K	34 K	67 K	306 K	675 K	875 K	1.2 M
FortiGuardアンチスパム	3.1 K	30 K	54 K	279 K	630 K	817 K	1.1 M
FortiGuardアンチスパム+アンチウイルス	2.7 K	26 K	52 K	225 K	585 K	758 K	1.0 M
システム性能							
管理ドメイン数 ***	2	20	100	800	2,000	2,000	2,000
受信者ベースのポリシー数(ドメイン / システム)、送信または受信	15 / 30	60 / 300	400 / 1,500	800 / 3,000	1,500 / 7,500	1,500 / 7,500	1,500 / 7,500
メールボックス数 (サーバーモード)	50	150	400	1,500	3,000	3,000	3,000
アンチスパム、アンチウイルス、認証、コンテンツプロファイル数(ドメイン / システム)	10 / 15	50 / 60	50 / 200	50 / 400	50 / 600	50 / 600	50 / 600

* ゲートウェイおよびトランスベアレントな導入向けの推奨ユーザー数。サーバーモードでの導入については、メールボックス数 (サーバーモード) の項目をご参照ください。適切なモデルの選択が難しい場合は、最大メールフローレートおよび平均メッセージサイズをご確認の上、FortiMail製品担当者にご相談ください。

** システム構成に依存します。表記の数値は、1つの共有システム上で複数のVMが実行されている状態に基づきます。

*** 管理ドメイン数は、アプライアンス上で構成・管理可能なEメールドメインの総数です。ドメインアソシエーションを利用することで、割当て先のプライマリドメインと構成を共有する追加のドメインを有効にすることが可能です。



フォーティネットジャパン株式会社

〒106-0032

東京都港区六本木 7-7-7

Tri-Seven Roppongi 9 階

www.fortinet.co.jp/contact

お問い合わせ